

栗 峰



No.20

2025. 8. 3



栗原市(旧瀬峰町)五輪堂山公園は、東北本線瀬峰駅から北へ約500Mの小高い丘にある。鎌倉時代末期に小野寺氏が観昌院を開いたとされている。桜・ふじ・つつじ・かたくり・萩など四季折々に花が咲き、それぞれの名前の「道」があり、特に「ふじ」は、この公園の象徴的存在

目 次

同窓会会長と校長の挨拶	2
各支部の近況、雑感・副会長諸氏から	3・6
対古高定期戦結果と応援団長挨拶	7
特集 新 築館高等学校20周年記念	8・12
令和7年度総会当番幹事のあの頃	13
令和6年度卒業生同窓会学年幹事の紹介と生徒会長挨拶	16



地方創生と地元の高校の存続

宮城県築館高等学校同窓会



会長
渡邊 一正
(高二十八回生)

同窓生の皆さん、こんにちは。お変わりなくそれぞれに御健勝で御活躍のことと存じます。今後とも、お体に留意され、同窓会に御協力をお願いします。

さて、築館高校も統合して二十年を迎えました。統合当時は、色々苦勞もありましたが皆さんのお力で同窓会の運営も順調に進められるようになりました。学校も、歴代の校長先生をはじめ、多くの先生方の御努力により少しずつ伝統校としての誇りと自信をもって発展しております。今後より素晴らしい学び舎として進展することをご期待しております。皆さん、御案内のようにこれから高校の無償化が始まり、今より以上に公立私立の高校の格差が大きくなります。今でさえ栗原の中学生の役4割近い生徒が他地域への進学をしているのが現状で

あります。このような状況が続くようであれば、この地域に高校は無くなるでしょう。こんな姿で地方創生などありえません。

様々な課題がある中で高校存続がこの栗原市活性化への第一歩だと思います。同窓生の皆さん、地元の高校を県内でも有数の文武両道の学校にしようではありませんか。そのために皆さん一人ひとりの思いを結集して、我が母校を応援してください。優秀な学校にすれば、良い企業も進出してきますし、医療もよい環境になると確信しております。

皆さん、我が母校を県内一の学校にしませんか、この栗原で生まれ育った子供たちは他の地域に負けない素質を持っています。高校までは地元で育てましよう。明日を担う子供たちの明るい将来のために、そして、日本、この栗原を守るために尚一層の皆さんのお力を貸してください。



学校長
日黒幸治

「チーム築高」の始まり

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に様々な形でご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、この4月に築館高等学校に赴任いたしました日黒幸治と申します。出身は古川高校ですが、1996年から9年間旧築館高校(男子校)に勤務した経験があります。小笠原先生とともにラグビー部を率いて、1997年の秋に仙台育英と決勝戦を戦いました。今は保育園になっていく伊豆のあの小さなグラウンドで、泥にまみれながら生徒と一緒に頑張って無我夢中にボールを追いかけたあの頃を懐かしく思います。栗原市の拠点校、県北の雄としての築館高校の存在価値を更に押し上げるべく、頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

応援練習は盛り上がり、壮行式では「これで最善の準備ができた」と勝利を確信したものでした。しかし、7勝8敗で総合優勝を逃し、築館高校4連敗という結果に。敗れたものの、「チーム築高」として生徒・教員一丸となって勝利すべく戦った時間は、紛れもなく記憶に残るもので、負けて涙する選手や勝ちたかったと拳を握る先生方を見て、「いい時間を過ごしているな」と思った私でした。その一体感や悔しさが、春の野球部の躍進(県ベスト16)や、剣道部(県総体で古川高にリベンジ達成)に繋がったと思うし、その他の部活も支部総体や県総体で躍動してくれ、築館旋風を巻き起こしてくれました。

今後、築館祭や体育祭、そしてそれぞれの進路に向けた活動が行われていきます。生徒・教員一丸となつてすべてを楽しみ尽くすつもりですので、あたたかく見守っていただくと同時に、ご支援ご協力をよろしくお願い致します。

最後になりますが、同窓生の皆様のご健康とご多幸と築高同窓会の方々の発展をお祈り申し上げます。

大学で躍動する同窓生たち

築館高等学校同窓会東京支部



支部長
三好 加津子
(高二十四回生)

同窓生の皆さん、こんにちは。東京支部長となって早いもので1年が経ちました。皆さんの協力や温かい励ましに感謝申し上げます。引き続き同窓会の運営に頑張りたいと思います。

この間、東京支部として新たに若い同窓生との交流に取り組んできたことをご紹介します。

東京農業大学の女子ホッケー部に同窓生3人が活躍していることがわかり、3月に事務局メンバー4人で激励訪問しました。山田菜菜子さん(キヤプテン・4年・築館)、狩野さくらさん(2年・一迫)、菅原美咲さん(1年・登米)と交流ができました。実際の練習を見学したり、ホッケーの簡単な説明を聞いたりとすることができました。



また男子ホッケー部には、同窓生1人、佐藤大希さん(1年)が在籍していることがわかり、会いに来てくれました。6月には、関東学生春季リーグ戦の応援に事務局3人で駆けつけました。応援団の大根踊りもすばらしく、力が入り一緒に大声で叫んでしまいました。なんとベスト3に輝き、嬉しい瞬間を分かち合いました。ちなみに男子ホッケー部は優勝と強豪チームでした。

若い同窓生との交流は始まったばかりですが、同窓会に興味をもってもらえたら何よりです。いつか同窓会の参加を夢見て、希望を込めて継続した取組みにしていきたいと思っています。

今後、本部の皆さんとの交流を大切に楽しい同窓会を目指していきたいと思っています。じいちゃん、ようこそお願ひします。

高校時代とその後

築館高等学校同窓会仙台支部

小野寺 繁(高十八回生 新聞部)

卒業して60年。遥かに年月が流れましたが、確かにそこそそ青春時代を築館高校で過ごせた事は私の宝物です。それは何と言っても、新聞部で部活を行ったことです。

先輩と同級生、そして顧問は熱血の工藤先生でした。「先生こんにちは」という記事で菅原先生(あだ名は「等兵生物」)宅を訪問したことがありました。昼ご飯は、人生初めてのスキヤキでした。感激でした。合宿は栗峰会館で数回行いましたが思い出すのは「メクラ汁」です。一人何十円か好きなものを買って、暗闇の鍋に入れます。明るいテーブルのメクラ汁で味がわかったのは鮎玉ぐらい。最悪は唐辛子を一缶入れた先輩のおかげで、全く食べられず。豚も食べなかつたそうです。そして仙台での県新連への参加では、宿所は東北大学の明善寮でした。

「汽車の窓から汽車チン出して・・・釣りがない」との落書きは大笑いでした。

た。大会では編集競技で優勝した記憶があります。当時の新聞部の先輩や同級生とは、現在もお付き合いがあり、一泊旅行に行ったり、飲み会を行っています。先輩の古稀では、工藤先生も参加して、温泉に集まりました。残念ながら同級生2名、先輩1名が亡くなり、工藤先生は正月の年賀状を最後に連絡が取れず心配しております。

高校二年生の修学旅行は関西で、東海道線で夜中に停車したホームは、セピア色のひらがなで「な」や「と」あり、遠くまで来たもんだなあと思いましたが、まさかその名古屋が第二の故郷となるとは思いませんでした。名古屋に築館の同級生が二人いて、飲み歩いたものですが二人とも亡くなりました。宮城県人会に入会しましたが、なかなか栗原の人はおりません。今はすっかりと中日ファンですが、なかなか名古屋人になれませんが、元の会社の仲間とゴルフや飲み会と楽しくやっております。そして、今後も新聞部の仲間と東京や仙台で集まることを楽しみにしています。

宮城県庁築高同窓会



会長代行
柳沢 宏
(高二十六回生)

こんにちは。共学化20周年、誠におめでとございます。県庁築高同窓会の会長代行の柳澤です。

卒業から40年以上が経ちましたが、故郷の栗駒の山並みや築館の街を目にするたび、今でも高校時代の記憶が鮮やかに蘇ってきます。当時「県北の公務員養成校」とも称された築高での学びは、自分の進路にも大きな影響を与えてくれました。

県職員として入庁し、初めて出席した県庁同窓会では、副知事をはじめ多くの幹部職員が居並び姿に圧倒されながらも、同じ母校という結びつきの力に励まされ、今でも覚えていています。

時代の流れとともに、庁内業務も複雑かつ高度化し、DXの進展など様変わりしましたが、多くの同窓の皆さんに支えられ、今日まで職務を

全うできたことに心から感謝しております。

一方で、県庁同窓会員の減少に加え、「コロナ禍を経た交流の停滞や仲間意識の希薄化が懸念される状況です。今後も情勢の変化に柔軟に対応しながら、会員相互が気軽に親睦を深め合える同窓会運営を継承し、同窓の絆を大切に育んでまいりたいと思います。

そんな中、陸上の鶴澤飛羽選手をはじめ、母校出身者が国内外で活躍する姿は、同窓生として大きな誇りであり、私もその軌跡を見守る一人です。在校生の皆さんも、これから様々な分野で羽ばたき、大きく飛躍されることを願っております。そして、この貴重な同窓の絆が、今後時代を越えて受け継がれ、より一層深まっていくことを願ってやみません。

新生築高20周年を祝して



前 学校長
野中 淳

若返りが図られるようになったことは、嬉しく思います。これを機に新風を吹き込んで頂きたいと期待しています。

さて、今年の入学式に出席しました。新入生は一三六人。澆冽とした表情に頼もしく思いました。が、私達の頃は、男子のみで1学年約三五〇人もいました。4分の1に減少した点は寂寥感を禁じ得ません。

少子化に加え、学区制の廃止で古川や仙台圏の高校に進む子が増えて、さらに高校授業料無償化で私立高校に進む子が増えることが予想され、郡部の公立高校に通う子は、益々少なくなっていくでしょう。由々しき事態です。

しかし、そんな状況でも、我が母校に入学してくれた生徒達には、大いに感謝し、歓迎したいと思えます。同時に一迫商業高校が併合することも歓迎したいと思えます。三年後に「なりたい自分になる」目標に向かって、先生活方も生徒達も気合が入っておられることと確信しております。

ライバルは、定期戦を戦っている古川高校のみならず、一関や仙台圏の高

平成17年4月に旧男子校の築館高校と築館女子高校が再編統合され、新生築館高校が創立して20周年、おめでとうございます。

私は、平成29年4月から2年間教頭として、令和5年4月から2年間校長として勤務させていただきました。

勉強に部活動に、そしてひとのため精神を掲げボランティア活動に実直に取り組む生徒諸君とひたむきに教育に邁進する教職員の皆さんとともに歩んだ4年間は、栗原の美しく豊かな自然とともに終生忘れ得ぬ思い出となりました。同窓会の皆様方にはご支援ご協力をいただきましました。この場を借り感謝申し上げます。

現在、かつて11年間勤務した兄弟校である古川高校に18年ぶりに勤務しております。66回目を数える今年の定期戦、画者譲らずまさに拮抗した戦いでした。ちょっとした差で古高が勝利しましたが、築高生の戦いぶりは見事なものでした。あっぱれだと思えます。

さて、その定期戦、両校共学化に向かって進むなか、存続が危ぶまれる時期がありました。築館女子高校

校であり、さらに東北圏、ひいては東京圏の高校であるとの気概を持つて励んで欲しいと願っています。

同窓会は、そうした生徒達を応援する使命を持っています。同時にOB・OGがそれぞれの分野で活躍している姿を見せることが、間接的に応援・激励に繋がると思っています。

奇しくも今年は、戦後80年。世界は、平和に向かうどころかウクライナ、パレスチナ等各地でキナ臭い状況が続いています。そうした状況の中で、私達は孫・子の為にどう生きるべきかが問われていると言えるでしょう。

結びに（老兵は消え去るのみ、そして温かく見守るべし）です。新たな役員の皆さんの活発な活躍によって母校と栗原、そして日本が平和裏に発展することを祈念して、退任に当たっての感謝と挨拶にさせていただきます。



副会長
佐藤 澄隆
(高二十五回生・栗駒)

副会長退任にあたり

の生徒会が男子校の文化になじめない違和感を感じていました。

危機感をもった築高生徒会は、古高生徒会とともに平成16年の定期戦に築女生徒会を招待、平成17年度以降の展望を説明し、実際に見学してもらいました。はじめは勇壮な両校の応援合戦に圧倒されたようでしたが、母校の名譽を背負った戦いぶりに感動し、一緒にやってみたいとの思いをもってもらい大成功におわかりました。両校の思いで危機を乗り越えた一幕でした。

共学後すべの平成17年こそは、古高の女子生徒がそろわなかったこともあり、女子生徒は綱引きのみでしたが、翌18年は築高女子部が圧勝、総合も築高が勝利を飾り、まさに男女力を合わせての定期戦に新たな歴史を綴りました。

あれから20年、「コロナ禍を乗り越え、その伝統は脈々と続いています。これから先も古高、築高が切磋琢磨していくことを期待しております。

結びに築館高校が仙北の雄として輝き続け、ますます発展していくことをお祈り申し上げます。

私はどうやら、郷土愛とか、母校愛が強いようです。

大学時代は「宮城県人会」に入って活動したり、東京で就職してからは、「東京栗駒会」に入っていました。母校の東京支部総会があると知り、勇躍参加いたしました。

当時、男ばかりの大先輩ばかりで臆する面もありましたが皆さんに温かく接していただきました。みなみらんぼうさんも出席されており、会の終わりに勇を鼓して声を掛けたところ、とても気さくにそして穏やかに、後輩の私に丁寧なことばで話していただき、そのお人柄に魅了されました。また、会報「東京栗峰」は、このような冊子ではありませんでした。編集、内容共に読みごたえがあるものでした。編集長が出版社の方で、ヒット作品（ハーレクインロマンスと記憶？）を手掛けた先輩でした。今は、さらに進化した内容となっています。

昭和62年、宮城県に戻り、教員採用試験を受け直し、石巻市立女子商業高校に赴任しました。一緒に赴任した教頭先生は、志波姫出身（栗農卒）、新任の方は、築館女子高卒でした。驚

退任に当たって想ふこと

「母校と栗原の発展を祈る」



副会長
佐藤 一
(高十九回生・葛城)

私が同窓会の役員に就いたのは、総会の実行委員長を務めた翌年でした。当時の会長は熊谷圭さんで、大場勝さん、渡邊一正さんと続きました。校長は佐々木正博先生、事務局長は大江善弘先生で、それから三十年、十一人の校長先生とご付き合いました。

意気投合した先生もいれば、「教育勅語」を巡って、討論を交わした先生もいました。当時の役員会は、「栗峰会館」で開催され、終了後は「黒沢魚屋」さんにて「二次会議」が始まり、右も左も相まみえて、その時々の政治・経済・教育等を巡って熱い議論を交わしました。それが同窓会活動のエネルギーになったような気がします。

その後、築館女子高と併合され、新築高となり、同窓会も新体制で発足し、華やいだ雰囲気になりました。一方で熱く語り合うことが少なくなって来たように感じられ、少々残念に思います。が、

2025 紫籐定期戦

令和7年度の結果

結果		築高	古高	
野球	●	1	6	
サッカー	○	0 (4)	0 (2)	PK
バスケットボール (男子)	●	38	48	
バスケットボール (女子)	●	43	70	
バレーボール (男子)	●	0	2	
バレーボール (女子)	●	1	2	
卓球 (男子)	○	0	5	
卓球 (女子)	●	2 (6)	2 (7)	セット
剣道	●	2	6	
ソフトテニス (男子)	○	3	2	
ソフトテニス (女子)	○	3	2	
バドミントン (男子)	○	5	0	
バドミントン (女子)	●	5	5	
綱引き (男子)	○	2	0	
綱引き (女子)	○	2	0	
総合		7	8	

毎年4月末に兄弟校である宮城県古川高等学校との伝統行事である古高定期戦は、北部地区総体（5月半ば）・県総体（6月初め）・東北総体（7月）・インターハイ（8月）の前哨戦として行なっている。この行事向け、新入生は朝昼放課後の応援練習に励み校歌、他数曲の応援歌を覚え築高生の自覚と誇りを身に付ける。本校入学の登竜門であり、最大イベントでもある。競技種目は15種目で行われ、勝ち越した方が総合優勝となる。競技以外にも両校生徒会長による舌戦や両校応援団による応援合戦なども見物である。ちなみに応援団長は、生徒会役員の中から選ばれ、伝統のあるエールをきる。

私が入学してからの2年間、定期戦に一度も勝利しておらず、私は、4連敗を防ぐために二十一代団長になりました。3年間に一度は勝てると言われている中で、今年こそは、必ず勝たなければいけませんでしたが古川高校の壁は高く、敗北を期してしまいました。

定期戦まで私は、団長として応援練習については、自分なりに覚悟を決めて行おうとしていましたが、なかなか、思ったとおりいきませんでした。しかし、応援練習の回数を重ねるたびに自分の思ったとおりに応援練習ができるようになり、1年生から3年生全員が前向きに取り組めるようになっていました。その思いもあり、団長として、とても悔しい気持ちで溢れました。また、私は、団長である前に野球部として定期戦に参加していましたが野球部も入部して以来、勝利を掴むことができました。更に古川高校とは、定期戦の数日後に控える春季支部大会で戦うことが決まっていた。そのため、定期戦で勝利し、良い流れそのままで、春季支部大会にも勝利したいと思っていましたが、定期戦を勝利することができませんでした。

しかし、野球部は、春季支部大会までの数日間、「打倒古川高校」を掲げ、春季支部大会は、2対0で勝利することができました。

残念ながら私は団長として、今まで勝利することができなかった先輩方の思いや応援をいただきました地域の皆様に勝利を届けることができませんでした。でも、この経験は必ず、これから社会で活かされると思っています。そして、後輩が必ず、定期戦の勝利を届けてくれると信じています。これからも、築館高校の応援をよろしくお願いします。



応援団長 浅見沙耶

凱歌を轟かせて



仙台支部の活動を模索

仙台支部長
笠原 哲（高・18回卒）

昨年、11月仙台支部は支部総会という形ではなく、「懇談会」形式で会合を開き、30人程の御出席をいただきました。年齢的には、80代の大先輩から、30代の男女、会員の約半数の出席を頂戴いたしました。築館からは、野中学校長先生、渡邊同窓会長の御出席をいただき、学校の出来事、部活や進学の状況等在学生のお話を伺うことができ、楽しくひと時を過ごすことができました。仙台と栗原との移動時間の大幅な短縮や交通手段の多様化、通信手段の高速化等栗原は仙台の“近郊”であり、通勤・通学圏内となっております。

こうした状況の中、仙台での同窓会活動は、個人間の付き合いが中心となってきたのではと思っています。今後の在り方も含め、話し合いの場を設けていきたいと考えております。



”でした。入学式は、希望に胸を凜とした美しさ、卒業式は、達成感に満ちた堂々とした美しさに涙が零れ、拍手で手が真つ赤になりました。

また、私の職場は、女性が殆どでしたので、同窓会に関わることで、男性との出会いに沢山の学び、ネットワークと感動をいただきました。

同窓会東京支部総会には、拙いフラダンスを踊らせていただき、能島和明氏（画家）、みなみらんぼつ氏（シンガーソングライター）、岩ヶ崎高・迫桜高同窓会役員の方々等にもお会いすることができ、人生の大きな思い出になりました。

築女の校歌より歌う回数が多くなった築館高校の校歌「風響く 薬師の森の杉の秀に・・・」、凱歌「臥薪嘗胆幾月ぞ・・・」は、高らかに歌えるようになりました。私は一迫に住んでいますので、この4月からの「築館高校一迫キャンパス」の看板を拝見し、時代を感じています。

各種会合における、閉会の挨拶が私の役目でしたが幸せな十数年を過ごすことができ、心から感謝申し上げます。自分の足で歩くことができるうちは、同窓会総会には参加させていただきます。

いたことには、校歌作詞は、白鳥省吾さんで、母校との奇縁を感じました。「・・・学ぶ文化に力あり」というフレーズが好きでした。

その後、栗原農業高校、若柳高校と異動し、自宅（尾松）から最寄りの岩ヶ崎高校に赴任し、校務の一環として同窓会の仕事に携わりました。ほぼ地元で知人友人も多く、半分同窓生の気分でした。東京支部総会に行き、当時支部長の佐々木くに子さんに出会えた事も大きく、今も、ご厚誼をいただいております。

岩高に8年間お世話になり、あと2年で退職と考えていたところ、思わず母校・築館高校への異動となりました。そして、同窓会事務局を担当することとなりました。これは、築館の門をくぐったお陰で、今があると思います、ご恩に報いる機会が得られました。当時の役員幹事は、同級生が多く、頼もしい限りでした。しかし、住職でもある身でしたので、3年間だけで、早期退職をしました。当時の大場勝会長さんから同窓会幹事を仰せつかり、渡邊現会長になって、副会長となりました。大場勝前会長は、見識と豊富な経

験とお人柄、渡邊会長には、実行力と企画力、胆力に敬服しています。

最後に母校に赴任した時に定期戦のエール、応援歌や凱歌等の振付が得意なということで、応援団だった私が指導することになりました。これも、奇縁というべきでしょうか。

以来、毎年春休みには指導に行っており、真摯で前向きな生徒に私が支えられています。これまで、たくさんの方々にお世話になりましたことに深甚の感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「人は恩を受けた方が施した事よりも多い。」という言葉を思い出しています。

私にとっては、同窓会役員として参列した入学式と卒業式はまさに「感動」とお人柄、渡邊会長には、実行力と企画力、胆力に敬服しています。

最後に母校に赴任した時に定期戦のエール、応援歌や凱歌等の振付が得意なということで、応援団だった私が指導することになりました。これも、奇縁というべきでしょうか。

以来、毎年春休みには指導に行っており、真摯で前向きな生徒に私が支えられています。これまで、たくさんの方々にお世話になりましたことに深甚の感謝を申し上げます。ありがとうございました。



副会長
佐々木あさ子
（高十回卒・二迫）

同窓会と人生はまさしく「出会いと感動」

築館高校

●生徒のみんな学校生活楽しんでますかー？
 ●きつと偏差値70の進学校になつていよう。楽しみにしています！
 ●築館最高
 ●今後入つてくる生徒も、なりたいたい自分になれるよう頑張りが、いろんなイベントごとなどを楽しんで、笑顔いっぱい生活で毎日色彩ついでいこう！
 ●もつと楽しい築館高校になりますように
 ●20年後の築館高校は灘に次ぐ東大輩出高校となつていと思うので、僕の子供も築館高校に入学させたいと思います。とても楽しみです。
 ●20年後も変わらずに築館高校という名、伝統を存続させていくためにも、自分たちが築館高校に所属していたという事実を忘れずに築館高校を守つていきたいなと思つた。
 ●定期戦二十連勝
 ●定期戦連覇！
 ●20年経つても、築館生が

仲良く楽しい学校生活を送れている学校でありますように
 ●20年後、この高校はもつと自由で、もつと楽しい場所になつてるとおもいます！この築館高校で過ごした毎日が、20年後にも楽しかった記憶として残つていようようにしたいです。
 ●20年後の築館高校ではどんなものが流行つていのか？
 ●20年後も全校生徒みんなが目標に向かつて生き生きと前に進める！
 ●きつとなんとかなるのよ
 ●明るい生徒が多く、地域との交流が深い学校
 ●築館最高！
 ●20年後の築館も元気が溢れる高校でいますか？築館生一人一人が自分に誇りを持ち、希望と夢の溢れる将来向かつて元氣よく学校生活を送れていることを心よりお祈り申し上げます。
 ●20年経つた築館高校でも、応援練習の歴史が続いてたらしいなと思ひます。

●つきこうありがとう
 ●つきこうはすばらしい
 ●何事も楽しく生きてください
 ●大学進学を強要するのではなく生徒自身がやりたい行きたいと思つたところに行かせるような指導すれば毎日が面白い、楽しいと思える学校生活になると思つた
 ●優秀な生徒がいっぱいの築館
 ●20年後の築館高校はもつと有名人が出て活気ある高校になつてるといいな！がんばれ築館！
 ●学校、地域ともに活気に溢れていてほしい
 ●もつと挨拶が溢れる学校
 ●今のまま変わらず、生徒たちの賑やかな声がいっぱい聞こえてくるような学校でいて欲しいです！！なくなつて欲しくないです。
 ●20年後もその先も楽しく明るい築館
 ●20年後も今までの良さを引き継いで更に良い学校になつていよう願つています。

●栗原市の高校の中心となりつとも、市外からの入学生も増加し交流や絆を築館高校を拠点として深め、「C」や「D」などを活用した授業展開など時代の変化と共に、我々築館生も変化していく。姿や形だけでなく、目に見えないところ、人としてどうあるべきかを自分で考え変化していく。その先にはキヤッチフレーズである「3年後なりたい自分がそこにいる」とあるように、今よりも多種多様で一人一人に価値のある進路実現に向け歩み続けていってほしい。一方部活動においても同様に、地域移行など新たに取組むが進む今、築館生は「文武両道」の如く、部活動を相手を思う気持ち、自分自身を鍛える場として捉え、宮城県を越え全国規模で活躍・有名になつていってほしい。
 ●伝統を守り続けてほしいという願いがあります。多くの伝統行事が残っている今、長きにわたり受け継い

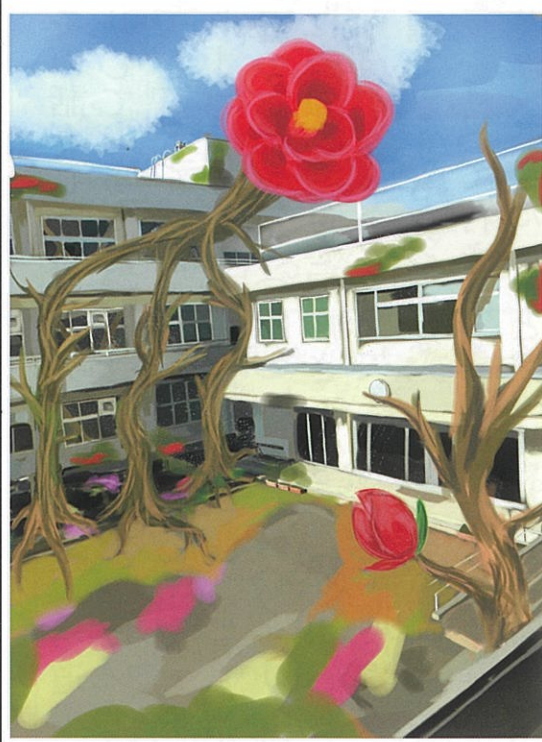
20年後の現役築館生が思う

で来てくださった先輩方の思いを今後も受け継いでほしいと思います。特に定期戦。今年で66度目を数えました。今後20年後も続いているさらに築館高校の伝統の1ページとして刻んでほしいと思います。しかし、伝統行事をひたすら続けるのではなく、先ほども書いたように、時代の変化とともに新たな行事やイベントを実施することも大事なことだと思ひます。失敗を恐れず、自分たちから何か起こし、新たな伝統を作つてほしいと思ひます。例えば地域交流や栗原プロジェクトの活性化など、過疎化・少子高齢化が確実に起きている今、過疎地域は過疎地域でも、人情やそこにいる人だけでも、明るく元気に生活してほしい、そのためには我々築館生が軸となつていく。いつも応援していただいていることへの感謝の思いや気持ちというものを忘れずに、自分たちが恩返しをする。
 ●ボランティア活動の継続と

進化。特設ボランティア部がなくなり、ボランティアへの機会が減つてしまうように感じますが、そうならないのが築館生。地域のため、いつも支えて応援していただいている皆様のために頑張るのが築館生であつてほしいと思ひます。ボランティアだからこそ力を入れて、人のために頑張つてほしい。
 ●年々入学生が減少してはいますが、今も昔も変わらずに、築館生全員が活躍できる場、それが築館高校であつてほしいです。佐藤智市長がよく言葉にされている「明日を担う子どもたち」子どもと呼ばれるラスト18歳の私たちが栗原の子どもたち先陣を切つて引つ張つてほしい。宮城県、栗原市あるいは日本社会へのメッセージに私たちがなりたい、日本一住みやすい田舎は栗原しかない！それくらいの覚悟を持つて頑張つていってほしいと思ひます。
 ●綺麗な校舎であつて欲しいです

●がつこうたのしいですか
 ●とうえんていーあにぶ
 ●月日はながれ
 ●明るく賑やかな築館になつてるといいなと思ひます
 ●もつと明るく楽しい学校になつてほしいな
 ●20年後も軽音楽部や吹奏楽部の演奏会があると期待して見に行きたいです。
 ●むつみにクラーついてるといね、
 ●今ある伝統を守りながら新しいことにも挑戦してください
 ●自分の選択した将来を後押ししてくれるような学校であつてほしい

●多様性の時代となり、制服の変容も見られる中で今現在でも様々な人がいて個性溢れる築館高校だけれど、20年後は今よりもさらに個性で溢れる様々な人が在学し、定期戦を始めとする多くの行事がさらに楽しくなつていようと思ひました！
 ●20年後も賑わえばいいですね。
 ●ガッツの心意気で頑張つてください！



20年後の築館高校をイメージした作品
 (築館高校美術部員制作)

OB 狩野英孝が母校凱旋

テレビ収録「かのサンド」in 築高

去る6月4日に、本校卒業生の狩野英孝君が「かのサンド」(フジテレビ系列、日曜10時から全国放送)のロケで来校しました。サンドイッチマンの2人と、パンサー尾形さんと、ゲストの王林ちゃんと、豪華5人でいらっしやいました。校地内までロケバスで乗り込み、大勢の生徒の歓迎を受けながら歩く様子を撮影し、一行は私(校長)のところをやつてきました。テレビカメラが回っている中で対面し、話を回すのは非常に緊張しましたが、助手(?)の狩野秀之先生(前々校長先生)に助けられながら、「ひと盛り上がり」することができました。英孝

君が在籍していたときに私も教員としていたのですが、部活も違うし、授業も受け持つていなかったの、接点がありません(ただ、英孝君は体が大きいラグビー部の先生だと覚えていてくれました)。この日の話題はまず、サンドイッチマン。高校時代仙台商業でラグビーをしていた2人と私は対戦経験がある(教え子達の思い出の試合です。私達が勝ちました)のです。

その話をしたらビックリしていました。ここで、「ひと盛り上がり!」。加えて、英孝君の卒業文集(「剛」)に書いた一言を尾形さんに紹介してもらい(天国でさえも真つ赤なバラを持って行きます。英孝)、また「ひと盛り上がり!」。さすがは旧男子校100周年時に3年生だっただけあって、ネタには困らない英孝君でした。

その後、弓道場で生徒や先生とワイワイし、英孝君が弓を射るなどして盛り上がり、撮れ高バツチリで満足そうに帰路につきました。撮影前は「ロケはしますが、使うかどうかはわかりません」と言われていたのに、撮影翌日「放映は8月17日に決まりました。楽しみにしていてください」との連絡が…。やっぱ使ってもらえそう…。良かった。突然の芸能人の訪問で生徒たちが大喜びしていたので、少しでも使ってもらえるようにと頑張りました。あー、緊張した。



「弓道場に『かのサンド』が来た。」晴れの日だった。生徒は遠巻きに群がった。色紙一枚のみ校長室に残し、サインは禁止だった。伊達氏は怖い人ではなかった。むしろサービスピ精神旺盛だった。富澤氏はやや寡黙だった。対して先輩である狩野英孝氏と現部長菅原颯は見事に的中させ拍手喝采、面目を施した。パンサー氏は終始話し続け思ったより長身で、王林ちゃんはテレビで見るとより綺麗だった。スタッフ十余名の黒子に徹する姿には「流石にプロだ」と思わせるものがあった。彼らは現地集合し現地解散した。記念ステッカーが残った。(弓道部顧問・森田談)

【狩野英孝プロフィール】
1982年生まれ
栗駒中・築館高校卒業
高校時代は弓道部に所属(同級生からのプチエピソード)
①弓道場で後輩に対し某芸人のホホイの真似をしろと言って、後輩も彼なりに頑張っていたが、リズムや動きのキレが悪かったようで熱心に指導していました。当時からお笑いに関しては大変厳しい方でした(笑)
②よく弓道場で「まっしろけー」と呼ばれていました。その後、タバコがバレて停学となり、まっしろけーを通り越し真つ青(坊主頭)になっていました。(笑)

令和7年度総会

当番幹事のあの頃



特集

新「築館高等学校」を 創った先生たちと今…

“校歌は自己への応援歌”

元築館高校教諭・教人 佐野智郎

築館高校で世界史の課外授業をしていたあの秋の日の午後五時半ごろ、薬師山から高らかに花火が打ち上げられた。大相撲秋場所で郷土出身の力士高望山が勝ったことを知らせる祝砲である。それを聞いた生徒たちの笑顔と将来へかける目の光が美しくかった。

校歌作詞を依頼されて即座に浮かんだのはこの時の生徒の姿であって、校歌のテーマを「こころざしを持って学ぶこと」と決めた。

校歌は、もとより在校生にも卒業生にも愛唱されなければならない。なぜ、築館高校に学ぶかは校訓に示されている。そして己を育んでくれた郷土への愛着と誇りが人生の支えとなる。そこで、校歌を一枚の織物に例えらるなら、芯を「こころざし」、横糸を「校訓」縦糸を「栗原の自然と歴史」として作詞することにした。

校歌一番には校訓の「共助」を「共に扶け合い」とし、築館の象徴である薬師山を、二番には校訓の「研鑽」を「己を磨かん」とし、郷土の「栗駒」を、三番には校訓の「進取」を「世紀を担う」とし、代表的な自然として「迫川」を入れた。全体を七五調として、高唱に適し、また口遊むこともできる調べとした。

式典において、折に触れて、高揚のときも、そして苦しいときも校歌を口遊むことで母校を誇りとし、己の人生の応援歌となることを祈るような気持ちで言葉を紡ぎ、推敲し、作り上げた。この祈りが在校生、同窓生に受け容れられていることを切に願うばかりである。

一 かげひびく やくし もり すぎ ほに
風 韻 葉 師 森 の 杉 の 秀 に
われらが 朝 日の こころざし
語りて共に 扶け合い
しんり みち 真理の道 を いざ 踏み行かん

二 あまかけの くりこま ごと
天 翔る 栗駒の如 しなやかに
すがたなり 姿 勢 凛々しき こころざし
持ちておのれを 磨かん
まな 学びの道 を いざ 勤しめん

三 どうとう せいきとよ はさまがわ
浴 々 と 歴 史 響 も す 迫 川
世紀を 担う こころざし
かかて 朋よ おこたらず
みらい 未来の道 を いざ 拓きなん



築館高校誕生のころ

新築館高等学校 初代校長 河野民帆

二十年前の平成十七年、それぞれ百四年、六十九年の歴史を誇る築館高校と築館女子高校が統合されて新生「築館高等学校」がスタートしました。これからの社会を担い切り拓いていく新しい生徒をいかに育成するのが大きな課題であり、そのための教育目標の策定、それに伴う校訓、教育課程、行事の決定、更に校歌の依頼、校章、制服の制定など前年度に決定しておかなければならない盛り沢山の内容を毎週両校の代表が集まってもらって決めていきました。

いよいよ四月、先日までの学校生活とは打って変わって、新二年三年生にとってはいきなりの共学ということでの戸惑いや不安は大変なものであったと思います。それでも生徒の持つ適応力や柔軟性には驚かされました。定期戦、総体、文化祭と行事を行っていくうちに特に三年生はリーダーシップを大いに発揮し、新たな築館文化を創造するという意気込みを随所で見せてくれて、新しい伝統の構築を感じさせてくれました。

全体としてのんびりとした生徒たちの学力向上も大きな課題の一つでした。授業の量と質の確保ということで、七時間授業や習熟度別授業、課外授業の充実などと併せて教師全員による研究授業を通しての授業改善など、やれることは何でもやっという意気込みで取り組みました。こうした取り組みは、形は変わっても築館の伝統文化として今にも息づいているものと思います。

築館高校は二十クラスでスタートしましたが、今は十二クラスと聞いています。築館を取り巻く状況は大変厳しいものであると思いますが、生徒たちは現在置かれている環境の中で精一杯青春をぶつけて高校生活を送っているものと思います。同窓生の皆様には、創立二十周年を迎えた築館高校をこれからも支え続けていただければ幸いです。

現在進行中

令和7年度から、校地の南東部河川敷を埋め立てして、新たに大きな校庭を整備しています。現在の校舎前の校庭は水はけが悪くなり、授業等にも支障が出ていました。

校舎前の校庭には、学校から、約7km離れている野球場が移転・整備される予定になっております。

ご迷惑をおかけします
グラウンド整備
をしています

令和8年3月27日まで
時間帯 8:30~17:00

築館高校第二グラウンド整備工事
工事金額 ¥816,200,000
発注者 宮城県北部土木事務所
東部地域事務所 道路建設部
電話 0228-22-2189
施工者 野口建設株式会社
電話 0228-22-2102



令和 5 年度同窓会本部会計・総会決算

令和6年度 宮城県県立高等学校同窓会 総会会計決算書

1	収入総額	861,342	円
2	支出総額	693,242	円
3	残 額	168,100	円

1 収入の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較		摘 要
			増	減	
1 会費	480,000	624,000	144,000		
(1) 前年券	270,000	411,000	141,000		3,000円 × 137 人
(2) 当日券	90,000	42,000		48,000	3,000円 × 14 人
(3) 協賛金	120,000	171,000	51,000		1,000円 × 171 人
2 繰越金	199,342	199,342			前年度繰越分
3 雑収入	658	38,000	37,342		ご祝儀
合 計	680,000	861,342	181,342		

2 支出の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較		摘 要
			増	減	
1 総会費	550,000	598,394	48,394		総会会場費・総会講師謝礼
2 通信運搬費	60,000	49,616		10,384	案内送付
3 消耗品費	15,000	0		15,000	
4 印刷・広告費	45,000	45,232	232		ポスター・チケット印刷
5 予備費	10,000	0		10,000	
合 計	680,000	693,242	13,242		

3 差引残額

(単位:円)

総収入額	総支出額	差引額	摘 要
861,342	693,242	168,100	次年度繰越とする

監 査 報 告 書

令和6年度宮城県県立高等学校同窓会(総会)会計について、令和7年4月16日に通帳及び関係書類を監査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

令和7年4月16日

宮城県県立高等学校同窓会長 殿

監事 佐々木 嘉郎 (印)

監事 千葉 由美子 (印)

令和5年度 宮城県築館高等学校同窓会・総会計決算書						
	1	収入総額	837,652 円			
	2	支出総額	638,310 円			
	3	残 額	199,342 円			

1 収入の部						単位:円
項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較		摘 要	
			増	減		
1 会費	415,000	493,000	78,000			
(1) 前払券	300,000	267,000		33,000	3,000 円× 89 人	
(2) 当日券	15,000	102,000	87,000		3,000 円× 34 人	
(3) 協賛金	100,000	124,000	24,000		1,000 円× 124 人	
2 繰越金	311,652	311,652			前年度繰越分	
3 雑収入	348	33,000	32,652		ご祝儀	
合 計	727,000	837,652	110,652			

2 支出の部					
項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較		摘 要
			増	減	
1 総会費	600,000	539,390		60,610	総会会費費・総会講師謝礼
2 通信運搬費	50,000	57,670	7,670		案内送付
3 消耗品費	20,000	0		20,000	
4 印刷・広告費	42,000	41,250		750	ポスター・チケット印刷
5 予備費	15,000	0		15,000	
合 計	727,000	638,310		88,690	

3 次年度繰越金				
総収入額	総支出額	差引額	摘 要	
837,652	638,310	199,342	次年度繰越とする	

監 査 報 告 書

令和5年度宮城県築館高等学校同窓会（総会）会計について、令和6年4月18日に通報及び関係書類を監査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

令和6年4月18日

宮城県築館高等学校同窓会長殿

監事 佐々木 嘉郎 (印)

 監事 千葉由美子 (印)

令和 6 年度同窓会本部会計・総会予算

令和7年度 宮城県築館高等学校同窓会・総会会計予算書(案)

1	収入総額	679,000 円
2	支出総額	679,000 円
3	残 額	0 円

1 収入の部

(単位: 円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	備 要
1 会費	510,000	480,000	30,000	
(1) 前売券	360,000	270,000	90,000	3,000 円× 120 人
(2) 当日券	30,000	90,000	△ 60,000	3,000 円× 10 人
(3) 協賛金	120,000	120,000	0	1,000 円× 120 人
2 繰越金	168,100	199,342	△ 31,242	前年度繰越し分
3 雑収入	900	658	242	
合 計	679,000	680,000	△ 1,000	

2 支出の部

(単位: 円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	備 要
1 総会費	549,000	550,000	△ 1,000	会場費・懇親会費・チラシ・パンフレットほか
2 通信運搬費	60,000	60,000	0	実行委員会及び総会案内
3 消耗品費	15,000	15,000	0	会費費用等
4 印刷・広告費	45,000	45,000	0	ポスター・チケット印刷
5 予備費	10,000	10,000	0	
合 計	679,000	680,000	△ 1,000	

令和6年度 宮城県築館高等学校同窓会・総会計予算書(案)

1	収入総額	680,000 円
2	支出総額	680,000 円
3	残 額	0 円

1 収入の部 単位:円

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	摘 要
1 会費	480,000	415,000	65,000	
(1) 前売券	270,000	300,000	△ 30,000	3,000 円× 90 人
(2) 当日券	90,000	15,000	75,000	3,000 円× 30 人
(3) 協賛金	120,000	100,000	20,000	1,000 円× 120 人
2 繰越金	199,342	311,652	△ 112,310	前年度繰越し分
3 雑収入	658	348	310	
合 計	680,000	727,000	△ 47,000	

2 支出の部

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	摘 要
1 総会費	550,000	600,000	△ 50,000	会場費・懇親会費・7/30(金)謝礼ほか
2 通信運搬費	60,000	50,000	10,000	実行委員会及び総会案内
3 消耗品費	15,000	20,000	△ 5,000	会議費用等
4 印刷・広告費	45,000	42,000	3,000	ポスター・チケット印刷
5 予備費	10,000	15,000	△ 5,000	
合 計	680,000	727,000	△ 47,000	

令和 6 年度卒業 同窓会学年幹事の紹介



3年1組 菅原 捷悟
この度、同窓会の役員をやることになりました。みんなが気軽に集まれる場をつくれるよう頑張るので、よろしくお願いします。

3年1組 榎本 花音
この度、同窓会幹事を務めます榎本花音です。至らぬ点多々あると思いますが、責任を持って精一杯努めます。よろしくお願いします。

3年2組 鈴木 晴人
三年二組の同窓会幹事を務めます鈴木晴人です。初めてなので分からないことがありますがスムーズに運営、進行できるように私なりに頑張ります。よろしくお願いします。

3年2組 齋藤 小逢
こんにちはーこの度、同窓会幹事を務めます齋藤小逢です。同窓会がみなさんにとって、いい思い出となるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

3年3組 高橋 春
こんにちは、この度、同窓会幹事になりました高橋春です。初めてやる役割なので頑張ります。宜しくお願いします。

3年3組 及川 華蓮
この度、同窓会幹事を務めることになりました及川華蓮です。分からないことも多いのですが、役割を全うできるように精一杯努めていきたいと思えます。よろしくお願いします。

3年4組 佐々木 悠斗
この度、同窓会幹事になりました三年四組佐々木悠斗です。皆さんの期待に応えられるように精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

3年4組 松田 優姫
この度、同窓会幹事を務めます松田優姫です。初めてのことが多く分からないことが多く至らない点もあると思いますが、責任を持って精一杯努めますので、よろしくお願いします。

会長としての1年間



生徒会長 三塚 琉矢

伝統ある築館高校が二十周年を迎えたことを嬉しく思うと同時に、これまで伝統を守り続けて来てくださった多くの先輩方へ、心から感謝申し上げます。これまで多くの方々に支えられながら、定期戦などを始めとする伝統行事を今年も続ける事が

できました。伝統ある築館高校の伝統を守りながらも、私たちは変わり続ける時代に臨機応変に対応し、新たなことにも挑戦するチャレンジャーでありたいと思っています。大事な伝統を守ることも立派なことですが、それだけではなく新しいことにも挑戦し、私たちからも、伝統を創っていききたいと思っています。決して簡単なことではなく難しいことだとは思いますが、築館生の思いをひとつにすることはもちろん、保護者の皆様や地域の皆様と共に感動を分かち合えるようこれからも頑張っていきます。私たち築館生は、「感謝、感動、希望」を忘れずにチャレンジャーかつ栗原市や宮城県へのメッセンジャーにもなる、それくらいの覚悟を持っています。



編集後記

学校が開校して、今年で125年目、共学化になり20周年を迎えた“築館高等学校”は、これからも地域に根ざして、人材を育み、新しさと懐かしさを皆さんと紡いでまいります。応援宜しくお願いします。